令和３年度　土浦日本大学中等教育学校自己評価票

本校の目指す学校像	土浦日本大学学園建学の精神に基づき自主自立の気風を養い、中等普通教育及び高等普通教育並びに専門教育を一貫して教育することによって世界の平和と人類の福祉に寄与しうる人材の育成をはかり、社会に貢献することを目的とする。目的実現のため次の目標を掲げるものとする。 （１）豊かな語学力を習得し、世界の人々と対話のできる日本人を目指します （２）自分たちを育てた文化や社会を理解し日本の素晴らしさを世界に発信します （３）複雑化した現代社会を生き抜くために、教養を磨きさらに得意分野を生かした高度な専門知識を身につけます （４）読書、絵画、音楽等を通じて芸術や文化を愛し理解する心を磨き、みずみずしい感性を養います （５）さまざまな危機に直面する地球環境をつねに心の片隅において行動のできる人、地球にやさしい人を目指します

本校の特長及び課題	多様化する世界において格差を乗り越え，国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。そのために，次の 3 点を重視する。 1.　公正な精神のもとで「卓越性」を達成する 2.　社会という文脈の中で「読み解く力」を高める 3.　「相互依存」の関係を構築して主張する

令和 3 年度の取組結果

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
教育活動（教務）	・教育課程の立案 ・運営・確認	・新学習指導要領に対応した教育課程を研究開発した。理系インタークラスを起点として探究的な学習の機会を充実化させた。	A
	・年間行事計画の立案と調整	・年間行事については，コロナ禍のため計画の中止や変更が余儀なくされた。その中でも対面の機会をできるだけ探り，スポーツデイやオープンハウスなどは対面で実施できた。国内研修は，1 学年の東北研修，3 学年の広島研修を実施できた。海外研修は，イギリスでの研修に代わる企画を 9 月に検討していたが，感染状況の拡大を受けて中止せざるを得なかった。次年度以降の代替策を継続して検討していく。	
	・時間割管理	・コロナ禍のため急なリモート授業を実施する機会が多く，特別の時間割を編成することも多かった。その都度，迅速かつ適切に編成し，生徒に共有することができた。オンライン期	

		間では HP から直接 Zoom の画面につながる工夫をしたり，課外授業を設定したりした。	
	・各種帳簿管理	・転入・転出の処理も含め学年と協力し正確に処理した。	
	・テストの運用	・コロナ禍の中，時期がずれたものの 4 回すべて安定した運用ができた。	
	・課外の計画運用	・課外については，コロナ禍の中で縮小したものの，Zoom や Google Classroom などを活用したオンラインでの実施も含めて一定の成果をあげた。	
	・教員研修の計画実施	・オンラインでの研修サービスに登録し，自由に研修ができるようにした。	
	・学校評価の実施	・オンラインでの実施にとどまったものの，委員が集まっての会議は予めの日程で実施できた。外部評価委員が授業参観やオープンハウスなどに対面で参加することはかなわなかったが，スポーツデイでは参加することができた。	
	・学校日誌の作成	・オンライン授業，時差登校など，予定外の事態にも対応出来た。	
学校生活への配慮（生徒指導）	・年間指導計画の作成と実践	・年間指導計画を作成したものの，多くの面で変更を余儀なくされた。	**B**
	・日常生活の指導	・コロナ禍の中で生徒の出欠管理の徹底を図り，健康面の確認を行った。また，陽性者が出た際の対応を含めて，日常から生徒の健康について保健所と連携を取ることで安全安心な学校づくりに寄与した。	
		・学年団の協力の下，登下校の立哨指導を行い，安全に配慮することができた。制服の着こなしについては，今後も継続した指導が必要である。	
	・清掃分担の計画運用	・清掃分担においては混乱無く実施できた。消毒や除菌なども定期的に行い感染症対策を十分に行った。	
	・各種講習会の実施	・インターネット利用，薬物防止，交通安全などをテーマとした講習会を実施し，問題行動の未然防止に努めた。	
	・いじめ対策	・生活実態調査を生徒，保護者に実施し，その都度，会議を招集することで共有をはかり，いじめの芽の段階から対応することができた。また，欠席理由に応じてしっかりと家庭と情報共有することで長欠の防止に努めた。	

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
	・生徒会活動全般の指導	・生徒会の運用については，コロナ禍で大変な中オンラインも活用して，最大限の活動ができるように努めた。各委員会の自主的な活動が目立った。また，選挙活動については，例年	

生徒会・部活動	・オープンハウスの計画と実施 ・スポーツデイの計画と実施 ・部活動の管理と運営 ・スポーツ大会の計画と実施 ・ボランティア活動の計画と実施	通り，実社会での選挙場面を想定した実践的な形態で実施できた。 ・Open　House では，対面での企画のほか，昨年度に続き，cluster を用いて本校そっくりの CG を作成し，その中で様々な取り組みを発信するなど，先駆的な取り組みがみられた。 ・コロナ禍で各種行事の延期や中止が相次ぐ中，Sports　Day を対面で実施できた。 ・部活動も，多くの大会が中止となり，子どもたちにとっては目標が立てづらい一年であった。ただ，その中で日々の練習も含めてそれぞれが頑張っている姿が見られた。 ・スポーツ大会では，担当者が様々な工夫をすることで，皆が楽しみながら活動することが出来た。また，全クラスで応援する姿勢がみられた。 ・ボランテイア活動では地域や社会を広く見据えた企画を立てて行動に移すことができた。	**A**
進路指導	・進路に関する各種調査の実施 ・進路講演会の実施計画 ・高大連携の促進活動 ・進路情報の収集分析と公開 ・３つの進路実現のための諸活動	・学園の情報処理室と連携し，受験大学及び方式を一元管理し，出願関係資料の作成合否データ処理を行った。 ・進路講演会では，オンラインを用いるなど生徒対象や保護者対象で学年の希望に応じ，実施できた。 ・学部学科説明会などを通じて大学との連携を果たすことができた。 ・コロナ禍の中でも，入試の変更点をいち早く情報を集め，全体で共有することが出来た。また共通テスト対策も実施するなど，入試の変更点に対応した指導をすることができた。 ・慶応大学，上智大学，筑波大学，東京外国語大学など難関大学の合格者を出すことができた。東京大学は推薦入試で 1 次試験を突破し，合格まであと一歩のところまで達した。推薦入試で進学する生徒が多かったが，一般入試での学力を更に高めていくことが今後の課題である。日本大学には安定した進学実績を出すことができた。	**A**

保健・衛生	・適切な健康診断の実施 ・健康管理への配慮 ・教育相談の充実	・生徒の健康診断については，当初の予定通り実施することができ，生徒の健康管理に努めることが出来た。 ・コロナ禍の中，体温測定，手指消毒の徹底をはじめ，生徒の状況によっては，保健所とも連携を深めて安全安心な学校づくりに努めた。 ・カウンセラーの利用は限られた時間の中でも連携が取れている。今後も利用していない生徒にも利用してもらえるよう周知していきたい。	**A**

図書	・読書案内の充実 ・図書館活用率の向上 ・図書委員活動の活発化	・図書委員会では，各学年で取り組んでいるブックレビューカードのデータ化が進んでいる。 ・新書など読書の推進を行っていくため，各教科で紹介を行っていった。また全学年を通じて読書習慣がつくよう努力している。 ・相変わらず，受験参考書を中心に，不明図書の増加が問題となっている。	B
広報	・1172 名の志願者と 165 名の入学者確保 ・多面的な広報活動の実施 ・多岐に渡る学習履歴の生徒の選別	・周辺私立の生徒数減少に対して志願者数が 1000 名を越え，入学者 165 名を確保した。県南の私学の中では，江戸取，茗渓，土浦中等の３校が中心となる形ができた。 ・今年度は，いち早くオンラインでの広報を行えた点，昨年度の合格実績，そしてコロナ禍での多様な入試が功を奏した。 ・今年は，コロナ禍対応の AO 入試，運用力入試，茨城型 SAT，千葉型 SAT，推薦入試，２回の一般入試などで県外を含め，評判が広がり入学者増につながった。	**A**

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
管理運営	・教育方針の浸透 ・校務分掌機能の円滑化 ・企画管理	・slack や Zoom を用いて主任間で連携を取ることができた。また，オンライン授業の期間においても各分掌に指示を出すことが出来，スムーズな登校期間への移行が出来た。 ・両教頭が担当する分掌をまとめ，各分掌に対して問題解決に関わる指導助言を与えた。 ・新型コロナ陽性者が出た際の対応について，感染拡大を防ぐとともに学習機会を継続できるよう最大限に努力した。茨城県や日本大学との連携についてもしっかりと対応した。 ・行事に関わる折衝，対外的な対応を含め，緊急時における予算，人的資源の配置などを行った。	A

庶務	・防災，環境美化の推進 ・保護者と教師の会の充実	・職員室内の会議室，学習スペース，給湯室を中心に美化に努めた。教員の机上については年度末に近づくに従い，整理出来ていない状況が目立つ。 ・保護者と教師の会は，コロナ禍の中で十分に機能を果たすことが出来ず忸怩たる思いがあるが，リモートでのミーティン	**B**

	・同窓会組織の運営 ・各儀式の運営	グの機会を適切に設けることができた。 ・同窓会の活性化は，懸案事項となっている。 ・コロナ禍の中，参加者を制限せざるを得なかったとはいえ入学式，卒業式に対して入念な準備と折衝，及び予行を通じて厳かな中にも本校らしい儀式の運営に成功した。特に映像の同時配信を行うことができた点は良かった。	
学年	・前期課程 ・後期課程	・学習面では，各学年ともに上位層を形成できつつある。1 学年では検定試験，2 学年では外部模試を積極的に受験する生徒が多く，学習意欲を強く持つ生徒が多い。一方で，思春期の真最中であり，人間関係のトラブルや不登校などは発生している。保護者の方の協力を頂きながら，学年のこまめな指導により解決に向かう動きがみられた。 ・6 学年では生徒へのきめ細かな指導が実り，日本大学の進学や他大学の推薦入試で実績が出た。今後は筆記試験型の一般入試での実績を向上させることが課題となる。5 学年は理系インタークラスを中心として上位層は学力を大きく向上させた。またゼミ活動で全国入選を果たす研究が複数発生した。中下位層に対しても蓼科スタディキャンプや日々の面談を通じて学力が着実に向上している。4 学年は上位層の形成，中下位層の学力向上など課題がみられる。残る 2 年間の中で生活面を含め総合的に梃入れをしていく必要がある。 ・2 学年，4 学年における英国研修は，コロナの影響により 2 年連続して実施できなかったため，代替研修を計画準備したが，実施には至らなかった。今後も検討を続けていきたい。	**A**

達成状況評価基準	A	取組目標が十分達成された	「よくできている」「できている」割合が 90%以上
	B	概ね達成された	「よくできている」「できている」割合が 80%以上
	C	課題を多く残している	「よくできている」「できている」割合が 70%以上
	D	成果が出ていない	「よくできている」「できている」割合が 70%未満